

保護者のみなさまへ

～「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果について～

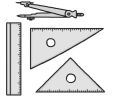
河内長野市立南花台中学校

《基本的な考え方》

本調査については、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」と文部科学省の目的にあります。これらを含めて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

○子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ること、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。

○学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。



《調査結果の取り扱い》

今年度も全国学力・学習状況調査の結果と分析を提供いたします。

◇本調査により測定できるのは、学力に限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。

◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。

□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いいたします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないように、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。



学力調査の概要

国語

設問番号	学校の平均正答率
①一	92.0
①二	52.0
①三	72.0
①四	76.0
②一	88.0
②二	72.0
②三	64.0
②四	76.0
③一	68.0
③二	60.0
③三	60.0
③四	72.0
④一	88.0
④二	72.0
④三	56.0

概要

学習指導要領の内容「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の正答率はおおむね、大阪府平均・全国平均を上回っていた。しかし、「知識及び技能」のうち「情報の扱い方に関する事項」の問題の正答率だけは、大阪府平均・全国平均を5～7ポイント下回る結果となった。「思考力・判断力・表現力等」の「書くこと」は大阪府平均・全国平均を7～8ポイント上回る結果となっているが、自分で考えて書く問題に限ると無答率が高かった。

現3年生は落ち着いて授業を受け、丁寧な学習が身についている生徒が多い。今後はそれに加えて、「書くこと」に関して、あきらめずに内容を深めようとする姿勢が定着することを目指したい。

特に成果が見られた問題例

③一 レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する。（読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題。）

③二 「おし測って」の線部の漢字を書く。（文脈に即して正しく漢字を書くことができるかどうかをみる問題。）

正答率が大阪府平均・全国平均をかなり上回っていた。漢字の書き取りに関しては特に正答率が高く、日々の漢字練習に丁寧に取り組める現3年生らしい結果ではないかと思われる。また、文章をよりよく整えようとする事と合わせ、基本となる確かな力が身につけていると考えられる。

特に課題が見られた問題例

①二 インターネットの記事を読んで気づいた点として適切なものを選択する。（意見と根拠など情報と情報の関係について理解しているかどうかをみる問題。）

①四 インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。（聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題。）

①四については、大阪府平均・全国平均と比較して正答率が低かったことに加え、無答率も高かった。得た情報から自分の意見を持ち、深めることに課題があると考えられる。生活の中で「自分の考え」を深める機会を意識的に持ち、短文から書いてみるという練習をより一層、積み重ねる必要がある。

数学

設問番号	学校の平均正答率	概要
①	60.0	<p>学校全体としては、全国や大阪と比較して考えると、全体的に正答率が高く、無回答率が低かった。特に無回答率については、すべての問題とまではいかなかったが、多くの問題で0.0%となっていたのはよい点である。</p> <p><u>特に成果が見られた問題例</u></p> <p>①、②、⑧(3)、⑨(1)(2)</p> <p>いずれも、全国の前答率と比較したときに10ポイント以上高い問題であった。①、②からは基本的な計算を理解できているということがわかる。</p> <p>この点については、授業初めに行う5分間の復習小テスト（これまで学習してきた内容を反復して行う形となる）が基本の定着に大きく貢献していると考えられる。</p> <p>⑧、⑨の説明する問題や証明の問題の前答率の高さと、無回答率の低さが特に目だったが、学校全体で取り組んでいる「学びあい」を意識した授業での話し合い活動の成果がここに出てきているのではないかと考えられる。</p> <p><u>特に課題が見られた問題例</u></p> <p>⑥(3)、⑦(1)(2)</p> <p>この3つは全国の前答率よりも低かった問題である。</p> <p>普段の様子を見ても、「長い文章を読んで情報を整理して考える。」という形式の問題が苦手であるが、その課題が顕著に結果にあらわれていたと考えられる。</p> <p>今後、こういった形式の問題に取り組む機会を増やしていき、苦手意識を持たずに問題に挑めることをめざしていきたい。</p>
②	92.0	
③	32.0	
④	44.0	
⑤	48.0	
⑥(1)	92.0	
⑥(2)	64.0	
⑥(3)	40.0	
⑦(1)	52.0	
⑦(2)	28.0	
⑧(1)	64.0	
⑧(2)	68.0	
⑧(3)	64.0	
⑨(1)	48.0	
⑨(2)	48.0	

英語

設問番号	学校の 平均正答率	概要
① (1)	76.0	平均正答率が全国比1.23と大きく上回り、各問題別にみても、17問中14問で全国平均を上回るなど、全体として英語学習に積極的に取り組んでいる集団であることがわかった。
① (2)	76.0	領域別にみると、「聞く」(全国比:1.04)、「読む」(1.19)、「書く」(1.91)となった。
① (3)	60.0	観点別にみると、「知識・技能」(1.24)、「思考・判断・表現」(1.21)となった。
②	52.0	問題形式別にみると、「選択式」(1.11)、「短答式」(1.90)、「記述式」(1.93)となった。
③	48.0	
④	52.0	特に成果が見られた問題例
⑤ (1)	68.0	全体として、「書く」問題で、全国平均を大きく上回った。本校では、書く機会を授業や家庭学習で多く求めてきた成果が出たのではないかと考えられる。その成果がもっとも感じられたのは、学校生活について25語以上の英文で答える問題⑩であると感じた。レベル2の「おおむね正確な英語で」が16%(全国7%)、レベル3の「3つの条件を満たしている」が52%(31%)といい結果が見られた。さらに、無回答率も8%(全国21%)と、「英語を書く」ことに対してハードルが低くなっていることが感じられる。
⑤ (2)	64.0	
⑥	44.0	
⑦ (1)	60.0	
⑦ (2)	56.0	特に課題が見られた問題例
⑧ (1)	72.0	全国平均を下回った問題は3問あったが、有意差を感じられるものは、ショッピングセンターの自動音声案内から自分の必要な番号を選ぶリスニング問題であった。正答率が低くなった原因として考えられるのは、リスニングの正確さではないかと考えられる。誤答として、傘の忘れ物を尋ねたい場面で、「ショッピングセンターの開く時間」や「その他」を選んでいった生徒が40%(全国22%)と英語が正確に聞き取れていないことを示していると考えられる。授業では、リスニングにおいて概要把握が求められる場面が多いが、より詳細な情報についても、聞き取れるトレーニングが必要なかもしれない。
⑧ (2)	36.0	
⑨ (1) ①	64.0	
⑨ (1) ②	44.0	
⑨ (2)	64.0	
⑩	16.0	

英語 はなすこと

設問番号	学校の平均正答率
1 (1)	20.0
1 (2)	12.0
1 (3)	4.0
1 (4)	60.0
2	20.0

概要

平均正答率は23%であったが、全国平均（12%）を上回ることができた。設問別に見ると、自由作文（内容を自分で考える問題）で、全校比で大きく上回ることができた。

特に成果が見られた問題例

内容を自分で考える問題：1（4）と2において、全国比で正答率が高くなっていた。

お土産を提案する1（4）では、レベル1（正確な英語）には16%（全国3%）、レベル2（おおむね正確な英語）には44%（13%）が入っていた。無解答率は0%（全国18%）であった。

環境問題で自分の考えを伝える問題2では、正答率が20%であったが、全国平均（4%）を大きく上回った。無解答率が0%（全国19%）と自信のない場合でも何とか答えようとした様子が見られる。

本校では、授業において、プレゼンテーションをしたり、自分の意見を即興で答える場面が多く、英語で話すことに抵抗が少ない生徒が多く、今回の結果（特に無解答率の低さ）につながったと考えられる。

特に課題が見られた問題例

全国平均を下回った問題は、1（3）であった。正答率が4%（全国平均13%）であった。語や文法の誤りのために正答に至らなかったレベル3の解答率は44%であった。この点からも、今後より正確な発話能力を身につけていく必要があると考えられる。授業中においても、学年が進むにつれて、発話の正確さを求めていく必要がある。

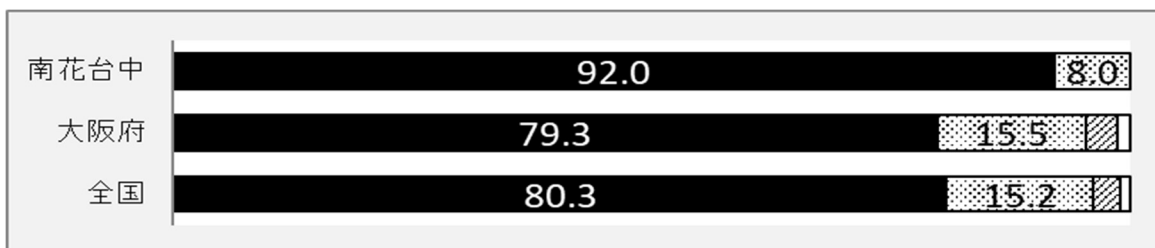
学習状況の概況

生徒アンケートより

全国や大阪府平均と比較し本校3年生の特徴（調査実施時点）と考えられる項目についてまとめました。

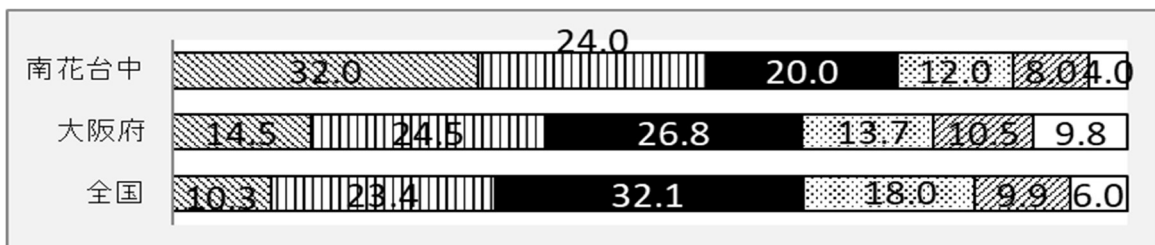
グラフは左から「当てはまる／どちらかと言えば、当てはまる／どちらかと言えば、当てはまらない／当てはまらない」または「そう思う／どちらかと言えば、そう思う／どちらかと言えば、そう思わない／そう思わない」の順に表しています。

◆1. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



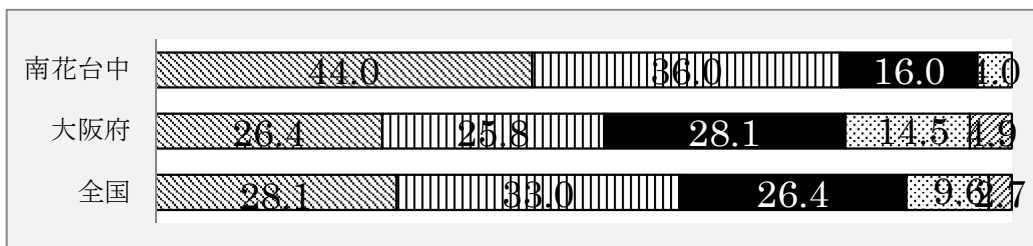
◇1. いじめについて、「いけないことだ」という回答が100%であり、正義感の強い学年集団の特徴が表れています。

◆2. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※グラフは左から3時間以上2時間以上1時間以上30分以上10分以上それ以下になっています。

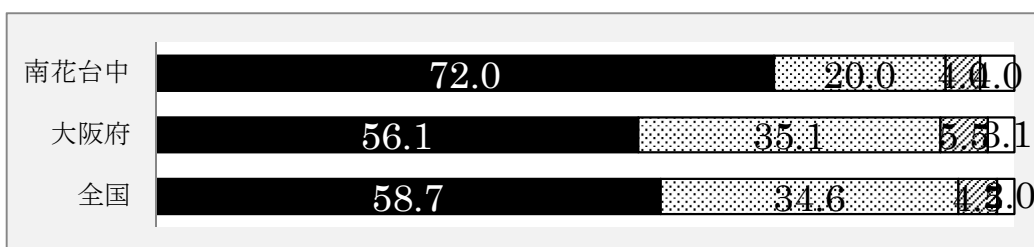


◇2. 平日の学習時間は毎日1時間以上学校以外で勉強をしています。土日においても同じような値が出ており、勤勉なこの学年の生徒の特徴が出ています。

◆3-a. 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか。

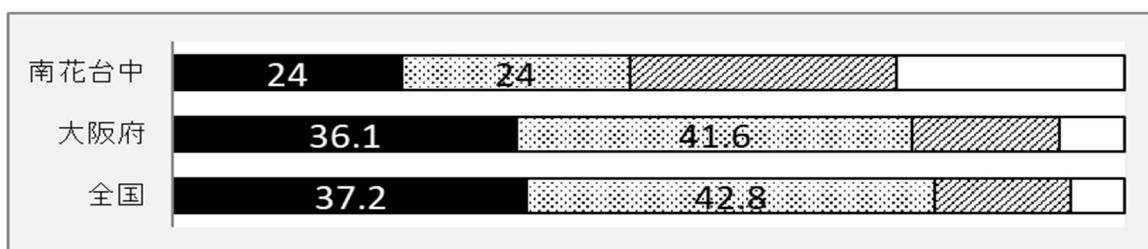


◆3-b. 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ。



◇3. (◆3-a)の結果から、本校は授業内でPC・タブレットなどのICT機器を使う機会を多く設けていることがわかります。学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うことに「役に立つ」と答えている生徒が7割を超えており、ICT機器を効果的に使いこなしていることがうかがえます。

◆4. 自分には、よいところがあると思いますか。



◇4. まじめで正義感がある反面、自己評価が低い傾向があります。実際にはこつこつ頑張り他者に大きく貢献をしているがそれを前面に出すことが苦手な部分が見受けられます。

調査結果を受けて

学校が重点的に取り組んでいくこと

- ① 「つながりあい、学び合う授業」を継続して進めていきます。
 - ・グループ学習、ペア学習、協働学習を積極的に取り入れることで自身の成長の実感を高めま
 - す。
 - ・習熟別指導などを通し一人ひとりを支援し、自らが見通しをもって学習に取り組むよう課題
 - の与え方を工夫し、達成感を味わえるようにします。
 - ・発表の機会を増やし、成功を体験することで自尊感情を育てます。また、相手に伝える能力
 - を高めたり、相手の意見を尊重する力を伸ばすことでコミュニケーション能力や自己有用感
 - を高めま
 - す。
- ② 生徒の自発的活動を促しながら行事を充実させ、生徒の個々の力を伸ばします。
 - ・体育大会やダイナミックフェスティバル、学年行事で生徒同士が意見を出し合い企画運営を
 - する体験から、自分たちの力でやり遂げたという経験、達成感や誰かのために役立つことで
 - 自分自身が役立っているという自己有用感や自尊感情・自己肯定感を高めま
 - す。

生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

- ① 計画的な家庭での学習を継続しよう。

計画的に課題に取り組み続けることは力を伸ばし大きな自信になります。
- ② 積極的に物事に取り組みましょう。

行事や学習に取り組む姿は十分に力が発揮されています。自分に自信を持ち、さらにもう一歩前

へでる気持ちを持ちましょう。

保護者のみなさまに協力してほしいこと

- ① 家庭学習を計画的に行うよう引き続き支援をお願いします。また子ども達の携帯電話等の使用
- 状況を把握し、規律あるものになるようにご指導ください。
- ② ご家庭では、子さまの自己肯定感が育つよう、できたことを評価し、励ましていただきますよ
- うお願いします。